

誰もが生きやすく、幸せを感じられるように

山梨市立山梨北中学校三年 本人の希望により氏名は掲載しません

もし、身近に障害をもつ人がいたら、みなさんならどのように接しますか。

私は以前、外出先で障害をもつ人を見かけたとき「近寄り難いし、他の人と少し違うな」と感じていました。全く障害についての知識を持っていなかったため、心の中で少し見下してしまっていた部分があったのかもしれませんが。

しかし五年前、私が障害を持つ人について考えるきっかけになる出来事が起こりました。それは、妹が発達障害だと診断されたことです。妹は、保育園の頃から小学三年生の頃までは、勉強も遊びも友達もみんなと同じように充実した日々を送っていました。しかし、小学四年生頃からだんだんと勉強についていけなくなってしまう、友達との関わりが減り、発達障害だと診断されました。現在小学六年生の妹はあまり学校に行きたがらない日もあります。学校が無い日は、朝起きてから夜寝るまで何もせずにずっと横になっている日も少なくありません。ご飯もあまり食べない妹を見ていると、学校で障害をもっているからといって偏見を持たれたり、仲間はずれにされているのではないかと心配になります。

そして私は妹のことを考えながらはっとしました。以前、私は障害をもっている人達について偏見を持っていました。もしかしたら、妹の友達やクラスの人達も障害をもっている人について偏見をもっているのではないかと考えました。それと同時に、私は人の多様さをみんなに知ってほしいと強く思うようになりました。身近なところで考えると、人との違いは性別、人種、宗教、思想、年齢、国籍、言語、障害の有無など様々です。さらに近年では性同一性障害やLGBTQ など、多様な性についても様々なメディアで取り上げられるようになりました。人それぞれ違いがある中で、障害をもっている人は自分が思っているよりも身近にたくさんいると思います。

実際、私の学校や妹の学校にも障害をもつ人がいて、障害をもっている人のためにサポートをする先生がいます。先生達は少し人と違う個性をもっている人達について理解があり、とても親切に対応しています。また、私の身近には障害者を支援する学校があって、みんながそれぞれ生活しやすくなるようにサポートしてくれる人がいます。このように個性について理解して、支援してく

れる人がいることはとてもありがたいことであって、これからその個性について理解して、優しく見守ってくれる人が増えていけばすてきだと思います。私の仲の良い友達は、妹のことを差別せずにとっても親切にしてくれ、友達の家族も私の妹について理解があります。私は障害をもっている妹に差別をせず、みんなと同じように平等に接してくれる姿を見て、涙が出そうでした。自分の家族が障害をもっているということを他人に話すことに抵抗を感じていましたが、信頼できる人に相談に乗ってもらうことで、負担が減ることもあると身をもって体験しました。反対に、もし自分が相談されたときにはプライバシーを守りつつ、相談してくれた人の心に寄りそえるようにしたいと思いました。

障害をもつ人の家族の苦労はもちろん多いと思いますが、私は障害をもつ人本人が何よりもつらく、苦労をしていると思います。自分が人より劣っていると感じて自虐的になったり、普通の人と比べて悲しくなったり、自分を自分で受け入れることができなくなったりと、障害をもつてみないと感じることでできないことはとてもたくさんあると思います。そこで、障害をもつ人達を支えるためにまずできることは障害を知り、受け入れることだと思います。なんとなく知ら知っている人はたくさんいると思いますが、ひとまとめに障害といってもそれぞれ違う特性があり、個人によっても違いがあります。それをふまえた上で、障害をもつ人と関わっていけばお互いが嫌な気持ちをせずにいい関係を築くことができると思います。国では「障害者差別解消法」が制定され、今も施行されています。この法律では障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的としています。私はこの法律を今まで聞いたことがありませんでした。調べてみるとこの他にも障害者のための法律がいくつかあることを知りました。

今、この国やこの世界ではバリアフリーをはじめとする、障害のある人にもない人にも優しい物が増えています。私達はこれからの社会を生きていく中で様々な人との違いを感じることでしょう。そんな中で、人はみんな同じではない、その個性をお互いに尊重でき、誰もが生きやすく幸せを感じられる社会を私はつくっていきたいと考えます。